

| 1-1 建物概要 | | 1-2 外観 | |
|----------|----------------------|--------|-----------------|
| 建物名称 | (仮称)相模原市中央共同住宅 | 階数 | 地上14F |
| 建設地 | 相模原市中央区相模原四丁目297番1 | 構造 | RC造 |
| 用途地域 | 商業地域 | 平均居住人員 | 268 人 |
| 気候区分 | 地域区分 | 年間使用時間 | 8,760 時間/年 |
| 建物用途 | 集合住宅 | 評価の段階 | 実施設計段階評価 |
| 竣工年 | 2015年10月 予定 | 評価の実施日 | 2014年2月27日 |
| 敷地面積 | 1,225 m ² | 作成者 | 株式会社長谷工コーポレーション |
| 建築面積 | 523 m ² | 確認日 | 2014年2月27日 |
| 延床面積 | 5,312 m ² | 確認者 | 株式会社長谷工コーポレーション |



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.3 ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです(kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.1

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.5

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.2

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.5

LR のスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.8

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

| 3 設計上の配慮事項 | | その他 |
|---|---|---|
| 総合 住宅用途らしいアースカラー系の外壁色や、近接する建物のデザインとの繋がりを意識した外観とし、町並みに配慮した。 | | 0 |
| Q1 室内環境 ・住戸の主開口面には庇(バルコニー)及びカーテンレールを設置。 ・F ・VOCの放出が極めて少ない部材を採用。 ・近接する鉄道騒音を考慮し、遮音等級T-2~T-4サッシを採用。 | Q2 サービス性能 ・共用部維持管理対策等級2、劣化対策等級3取得予定。 ・各住戸に電話、CATV、インターネットに対応した回線を引き込む計画。 ・入居者が多目的に利用出来る集客室を共用施設として計画。 | Q3 室外環境(敷地内) 敷地外周の道路沿いには、公開性のある歩道状空地及び自主管理公園を設け、地域の賑いに配慮する。 |
| LR1 エネルギー 住宅性能温熱等級3とした。 | LR2 資源・マテリアル ・内装の更新性に配慮し、二重天井、二重壁の採用。 ・和室機にダン機を採用する。 ・共用部の給水管にステンレス鋼管を採用し、耐久性の向上を図っている。 | LR3 敷地外環境 ・相模原市の緑化基準を上回る緑化に努めた。 ・相模原市の指導に基づいた雨水排水の流出抑制対策を実施。 |

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 『ライフサイクルCO₂』とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される